

〈下顎第三大臼歯（智歯）の埋伏〉

- ・原因として、下顎骨の発育不良、嚢胞や腫瘍（歯原性病変の好発部位）の存在、歯胚の位置異常、周囲骨との癒着などがある。
- ・下顎第三大臼歯が半埋伏の状態では、萌出している歯冠と遠心側を被覆する歯肉との空隙に食渣が停滞し、細菌繁殖を促す結果、智歯周囲炎をきたす（図 8-8）。

5 歯の位置や歯列の異常

- ・顎の発達状態や歯の萌出の異常に伴い、個々の歯の位置異常や配列状態（歯列弓）の異常を引き起こす（表 8-6、図 8-9）。

表 8-6 歯の位置や歯列の異常

名称	症状	原因
転位歯	唇（頬）舌側や近遠心側への移動	萌出余地の不足、隣在歯の欠損
捻転歯	歯の長軸を中心として回転	萌出余地の不足、咬合の異常
傾斜歯	歯軸の傾斜	隣在歯の欠損、習癖
高位歯	咬合平面を越えて対顎側へ突出	対合歯の欠損
低位歯	萌出するが咬合平面に未到達	半埋伏、萌出位置の異常
移転歯	隣接歯間での萌出位置の交換	歯胚の位置異常、萌出順序の異常
逆生歯	正常とは反対方向に発育・萌出	歯胚の位置異常
離開歯	隣接歯間で接触の喪失	埋伏過剰歯、欠如歯、習癖
叢生歯	歯列の不正配列	顎と歯の大きさの不調和

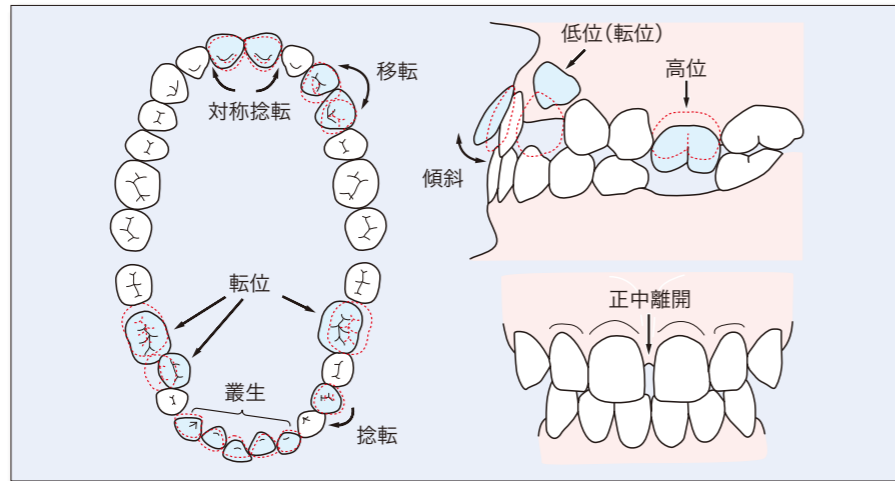


図 8-9 歯の位置や歯列の異常

B 歯の機械的・化学的損傷

- ・萌出歯は、さまざまな原因によって歯質の損耗と破壊をきたす。
- ・加齢とともに徐々に進行する生理的損耗と、生理的範囲を超える病的（あるいは外傷性）損傷がある。
- ・口腔環境下では、複数の要因が相乗的に作用して歯質の損耗速度を高める。

1 歯の慢性外傷

(1) 咬耗症

- ・咀嚼や咬合によって歯質が摩滅して、損耗をきたすことを咬耗といい、生理的範囲を超えて歯質損耗が著しい場合を咬耗症という（図 8-10）。
- ・対合歯や隣接歯が互いに摩擦しあう部位（切歯の切縁、犬歯の尖頭、臼歯の咬頭および隣接面）に生じる。
- ・咬耗の程度を決定するのは、食物の硬さ、歯の形態や硬度、咬合力、歯ぎしりなどである。
- ・象牙質の一部が露出すると、エナメル質の咬耗面よりも軟らかいため、皿状に陥没する。

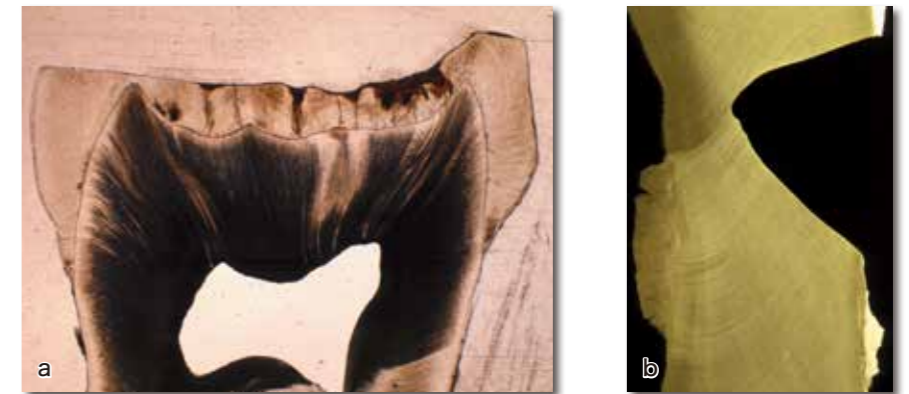


図 8-10 歯の慢性外傷（歯の研磨標本）

a：臼歯咬合面エナメル質の咬耗 b：歯頸部象牙質に及ぶ摩耗（くさび状欠損）

(2) 摩耗症

- ・咬耗以外の機械的作用によって歯の損耗をきたすことをいう。
- ・パイプ喫煙者、吹管奏者、硝子ビン吹管工など、職業によって一定の歯に発生する習慣性摩耗がある。
- ・義歯床縁またはクラスプによる摩耗では、唇側のみならず舌側、隣接面にも出現し、溝状の欠損を生じる症例もみられる。
- ・過度な力での歯面清掃によって、唇（頬）面の歯頸部が、くさび状、皿状に欠損